

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23530520

研究課題名(和文) 北米における多国籍企業の輸出加工戦略と国境経済圏の研究

研究課題名(英文) Research on the Export Processing Strategy of Multinational Corporation and the Border Economic Zone in North America

研究代表者

上田 慧 (UEDA, SATOSHI)

同志社大学・商学部・教授

研究者番号：50121786

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：NAFTA国境地帯に広がる北米市場向け輸出加工工場に着目し、米国・カナダ間の北米最大の自動車工業地帯と、メキシコにおけるマキラドーラ(保税加工工場)の新しい展開を現地調査し、国際輸出加工戦略の実態を解明した。第一に、メキシコと中国の国境経済圏における輸出加工貿易モデルの比較を行った。第二に、デトロイトとカナダのオンタリオ州との間の国境経済圏が輸出加工貿易モデルの一つであることを立証した。第三に、メキシコ中部高原地域に日系企業進出ブームによる新興自動車クラスターが形成されており、国境マキラにたいして内陸マキラの発展が顕著であることを考察し、その問題点と課題を提起した。

研究成果の概要(英文)：Focusing on the export processing factories directed towards the North American market expanding in NAFTA border region, a local field survey was conducted for the largest automotive industrial zone in North America between the US and Canada, and the new development for the maquiladoras (bonded processing factories) in Mexico, and the actual situation of the international export processing strategy was clarified. First, a comparison of the export processing trade model in the border economic zone of Mexico and China was made. Second, it was demonstrated that the border economic zone between the Detroit and the province of Ontario in Canada is one of the export processing trade models. Third, an emerging automotive cluster has been formed through the expansion boom of Japanese companies in the central plateau region of Mexico, and considering the remarkable development of the interior maquiladoras in relation to the border maquiladoras, the issues and challenges were raised.

研究分野：経営学

キーワード：NAFTA 多国籍企業 マキラドーラ 輸出加工区 国際経営 国境経済圏

1. 研究開始当初の背景

(1) 多国籍企業による国際経営戦略の研究において、生産立地戦略が地域経済に及ぼす影響について考察した研究成果は少ない。本研究では、多国籍企業が低コストや優遇税制を求めて、発展途上国の輸出加工区 (EPZ) に国際輸出加工基地を置く傾向に着目している。とくに、隣接する国・地域の国境に形成された「国境経済 (border economy) 圏」の理論的検討を媒介として、北米自由貿易協定 (NAFTA) 加盟国 (米国・カナダ・メキシコ) に集積した輸出加工工場群の現地調査によって、多国籍企業の立地戦略とその変容の解明を試みた。

(2) 多国籍企業研究の最新の潮流としては、国境が分かち制度的差異や経済格差を軽視した「ボーダレス化」や平板なグローバル化説への懐疑論が台頭していることである。『フラット化する世界』(上、下、T. フリードマン著・伏見威蕃訳、2006年)へのA. ラグマンの批判など国際論争に注目し、国境が分かち制度的格差を利用した、多国籍企業による国際輸出加工基地の発展が、各国の「加工貿易国家」化の問題点や、自由貿易協定、地域経済統合の下で隘路となっている地域格差の解決にとって、重要な示唆を与えると考えられた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、地域経済統合としての NAFTA を中心にカリブ海諸島に及ぶ輸出加工地域と国境経済圏の研究の深化を図ることを目的とした。これまでの米墨国境地帯の調査と中国珠江デルタの比較に留意しつつ、「国境経済圏」研究の新たな領域を拡大し、有効性を検証するため、現地調査を実施した。

(2) 輸出加工を中心とした国境経済圏の例証を重ねるために、NAFTA 加盟国 (米国・カナダ・メキシコ) に集積した「輸出加工工場群」の実態調査を対象を絞り込んだ。そのうえで、中国・メキシコにカナダ、カリブ海諸国の一部をくわえて国際比較を深め、「国境経済圏」の類型化と政策的有効性を検証することにした。米国とその「分工場経済」とよばれるカナダについてのラグマンらの研究は、M. ポーターの著名なクラスター理論に再検討を迫るものであり、本研究は、こうした経営学・国際経営論の新たな発展に寄与できるものと考えられる。

3. 研究の方法

(1) 米国・カナダの自動車産業関連施設を訪問し、自動車関連産業の国際的集積地域の本格的な現地調査を行った。米国デトロイト都市圏における GM など自動車多国籍企業の世界本社・諸工場・部品供給関係、カナダ子会社と分工場の配置と機能を示す分布図な

ど、世界最大の自動車産業クラスターの全体像の把握に努めた。

(2) そのため、カナダ大使館付属図書館、日本自動車工業会図書館などを訪問し、事前の文献調査を行い、現地調査のために渡航し、デトロイト公立歴史図書館、自動車会社などを訪問し、ビッグスリーの形成・発展が都市圏形成に及ぼした歴史的要因について考察した。

(3) メキシコのマキラドーラの再調査、ブエルトリコ大学で資料を収集し、現地調査を実施して、国境経済圏の新たな動向と自動車多国籍企業のメキシコ内陸部展開、それに対応したマキラドーラ (保税輸出加工指定企業) の内陸部展開の新しい傾向を中心に、多国籍企業による国際輸出加工戦略の地域経済への影響を考察した。

4. 研究成果

(1) 輸出加工制度が普及し国境をクロスする「国境経済 (border economy) 圏」の存在について、マキラドーラ工場群が林立する米国-メキシコ間の国境地帯を典型的な国境経済圏と規定し、論証した。東アジアの SIJORI-GT (成長の三角地帯) も、シンガポール・マレーシア・インドネシアの資金・資源・人材等の「相互補完型の国境経済圏」であることを論証し、とくに、中国広東省珠江デルタにおける香港と大陸中国間の「輸出向委託生産モデル (広東模式)」を「委託加工型国境経済圏」と規定し、以上3つの国境経済圏を代表例として析出した。従来、その共通性を論証した研究はなく、マキラドーラは米墨国境地帯の飛び地的な輸出加工区とみなされ、SIJORI-GT はアジアの局地経済圏の事例、広東模式はその地域独特のシステムとみなされてきた。輸出加工区さえアジアモデルとする見解もあった。この点で、単著『多国籍企業の世界的再編と国境経済圏』同文館、2011年8月の刊行により、SIJORI-GT を含めて、中国広東省の来料加工などの「加工装配」とメキシコの「マキラドーラ」との共通性について初めて指摘し、国境を活用した多国籍企業による「輸出加工システム」として実証的・歴史的に論証できた。

(2) とくに NAFTA 成立過程とマキラドーラとの関係、カナダの分工場経済化と対比したメキシコ・マキラドーラの垂直的な保税輸出加工制度について、衰退するどころか、双子 (ツイン) 工場などの国境型マキラとともに、内陸型マキラ、シェルター型マキラなど新しい類型が発展していることを明らかにした。中国珠江デルタも同様の傾向がみられるが、輸出加工システムが中墨両国の貿易・地域経済に及ぼす影響は全く異なるものであり、特にメキシコは、輸出加工国家化、メキシコのマキラドーラ化という重大な課題を抱えていることを明らかにした。

(3) 本研究で明らかになったことは、多国

籍企業の進出先として、輸出加工区は例外ではなく、世界的に一般的なパターンになっているということである。中央ヨーロッパの「マキラドーラ・シンドローム（症候群）」として国境地帯における保税輸出加工工場の展開を指摘した貴重な指摘もある。以上の観点から、NAFTA のもとの「米国＝カナダ国境経済圏」の存在について、「米国＝カナダ国境経済圏における自動車産業の集積」『同志社商学』第 63 巻第 3 号、2011 年 11 月刊行、において論証した。

予備調査をふまえ、米系自動車多国籍企業の拠点デトロイトと国境で隣接するカナダ・オンタリオ州のウィンザーからトロント・オシャワに連なる NAFTA スーパーハイウェイ（401 号線）沿線の自動車産業集積の分析を行い、以下の諸点を解明した。世界最大規模の米加間の緊密な国境貿易の存在、その圧倒的部分がデトロイト自動車多国籍企業への部品供給などカナダ自動車産業の依存の深さ、マクロ リン一家によるカナダ国産自動車産業の発展と GM への吸収という歴史過程、米国経済の市況に左右されるほど、カナダ自動車産業が米国デトロイト自動車大手の分工場化している実態、以上を明らかにできた。

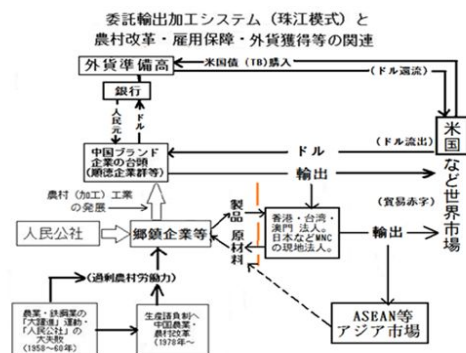


(4) NAFTA における米国系自動車多国籍企業による輸出加工立地戦略のカナダ経済に及ぼす影響、米国デトロイト都市圏の空洞化・都市破産の実態、GM など自動車多国籍企業の世界本社・諸工場・部品供給関係、カナダ子会社と分工場の配置など、世界最大の自動車産業クラスターの全体像の把握に努めた。デトロイトではフォード社のルーージュ自動車工場を見学し、併せて、同市とカナダ・ウィンザー市等との自動車産業の国境をクロスした企業内国際分業の形成過程について重要な資料を得ることができた。また、マキラドーラの新しい展開について、プエルトリコのサンファンを訪問し、現地調査することによって、多国籍企業の国際輸出加工戦略の実態について貴重な知見を得ることができた。こうした研究成果を公開する一環として、学校法人同志社東京新島講座・同志社大学キャ

ンパスフェスタ共催「多国籍企業の世界 - 企業は地球市民たりうるか - 」（2013 年 10 月 5 日東京）の講演を行った。

(5) 2014 年 3 月に、ジェトロ「メキシコビジネスセミナー」に出席し、最新情報を得るなどの予備調査をすすめて、多国籍企業をグローバル企業市民（コーポラティブ・シチズンシップ）活動の重要性と関連させて位置づけた。また、多国籍企業の国際経営は貿易と対外直接投資（FDI）が中心であったが、その中間領域に、輸出向け委託生産契約はじめフランチャイズ・ライセンス・契約農業などの「非出資型（NEM）国際生産」の領域が拡大していることに着目した。このような非出資型の国際生産や地域開発の経路を通じて、メキシコなどの途上国が、多国籍企業による国際的資本循環＝グローバル価値連鎖に編入されていること、輸出向委託加工貿易と国境経済圏の新しい傾向は、こうした「非出資型国際生産」や近年の「フラグメンテーション（生産の分散立地）」の進行を反映していることを明らかにし、「国際経営と多国籍企業の現段階」『同志社商学』第 65 巻第 5 号、2014 年 3 月で研究成果を公表した。本論文では、日本の多国籍企業が海外収益に依存する成熟段階に至ったことを論証した。また、自動車等グローバル 4 業種に偏重した日本の産業的特質について指摘し、輸出加工国家化との関連について考察した。

(6) 上記論文では、農村開発・雇用創出・外貨獲得等と関連した国内・国際資本循環を示す輸出加工貿易モデルとして、中国珠江デルタの珠江模式を事例に、下図のようにモデル化した。



このモデルは、輸出加工貿易を農村開発など国内資本循環に結び付けた典型例であり、その反対に「飛び地」的な輸出加工区が特徴のメキシコなどについても、国際比較モデルとして有効である。

(7) 近年、メキシコ中部高原（パヒオ）地域に日系自動車・同部品企業の進出ラッシュにより、新興自動車クラスターが形成されている。この点に着目し、北米自動車サプライチェーンの展開との関連、国境マキラにたいする内陸マキラドーラの普及・

発展との関連について、「メキシコ新興自動車クラスターと内陸マキラドーラの発展」『同志社商学』第 67 巻第 1 号（2015 年 6 月刊行確定）で明らかにした。北米の米墨国境地帯の国境型マキラは、多国籍企業の「出資型」に近く、委託加工型マキラは「非出資型（NEM）国際生産」を示し、シェルター型マキラなど多様化した新装のマキラドーラがメキシコ内陸部に普及し増加している。マキラドーラを一時輸入制度に一本化したメキシコ政府は、輸出加工の優遇税制をメキシコ地場産業振興に結び付けようとする事によって、輸出加工貿易への依存を深め、「メキシコのマキラドーラ化」の進行を招いていること、そうした問題点と課題について考察した。



< 引用・参考文献 >

T. フリードマン著・伏見威蕃訳『フラット化する世界』(上、下) 2006 年。

Alan M. Rugman and Joseph R. D'Cruz, "Double Diamond Model of International Competitiveness: The Canadian Experience", *Management International Review*, Vol. 33, 1993 参照

Marc Ellingstad, The Maquiladora Syndrome, *EUROPE-ASIA STUDIES*, Vo1. 49, No. 1, 1997 参照。

Thomas Klier and James Rubenstein, *Who Really Made Your Car?: Restructuring and Geographic Change in the Auto Industry*, W E Upjohn Institute, 2008 参照。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

上田慧「メキシコ新興自動車クラスターと内陸マキラドーラの発展」『同志社商学』, 査読無, 第 67 巻第 1 号 (2015 年 6 月刊行確定), pp.1-20

上田慧「国際経営と多国籍企業の現段階」

『同志社商学』, 査読無, 第 65 巻第 5 号, 2014 年 3 月, pp.635-655

上田慧「米国 = カナダ国境経済圏における自動車産業の集積」『同志社商学』, 査読無, 第 63 巻第 3 号, 2011 年 11 月, pp.1-19

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1 件)

上田慧『多国籍企業の世界的再編と国境経済圏』(同文館) 2011 年 8 月, pp.1-278.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

上田慧, 「書評: 夏目啓二『21 世紀の ICT 多国籍企業』を読む - 新興多国籍企業が台頭する世界 - 」『経済』第 228 号, 新日本出版社, 2014 年 9 月号所収, pp.112-113

上田慧, 学校法人同志社/東京新島講座, 同志社大学キャンパスフェスタ共催「多国籍企業の世界 - 企業は地球市民たりうるか - 」(http://www.doshisha.ed.jp/information/attached/131005lecture_ueda.pdf)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上田 慧 (UEDA SATOSHI)

同志社大学・商学部・教授

研究者番号: 50121786

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者